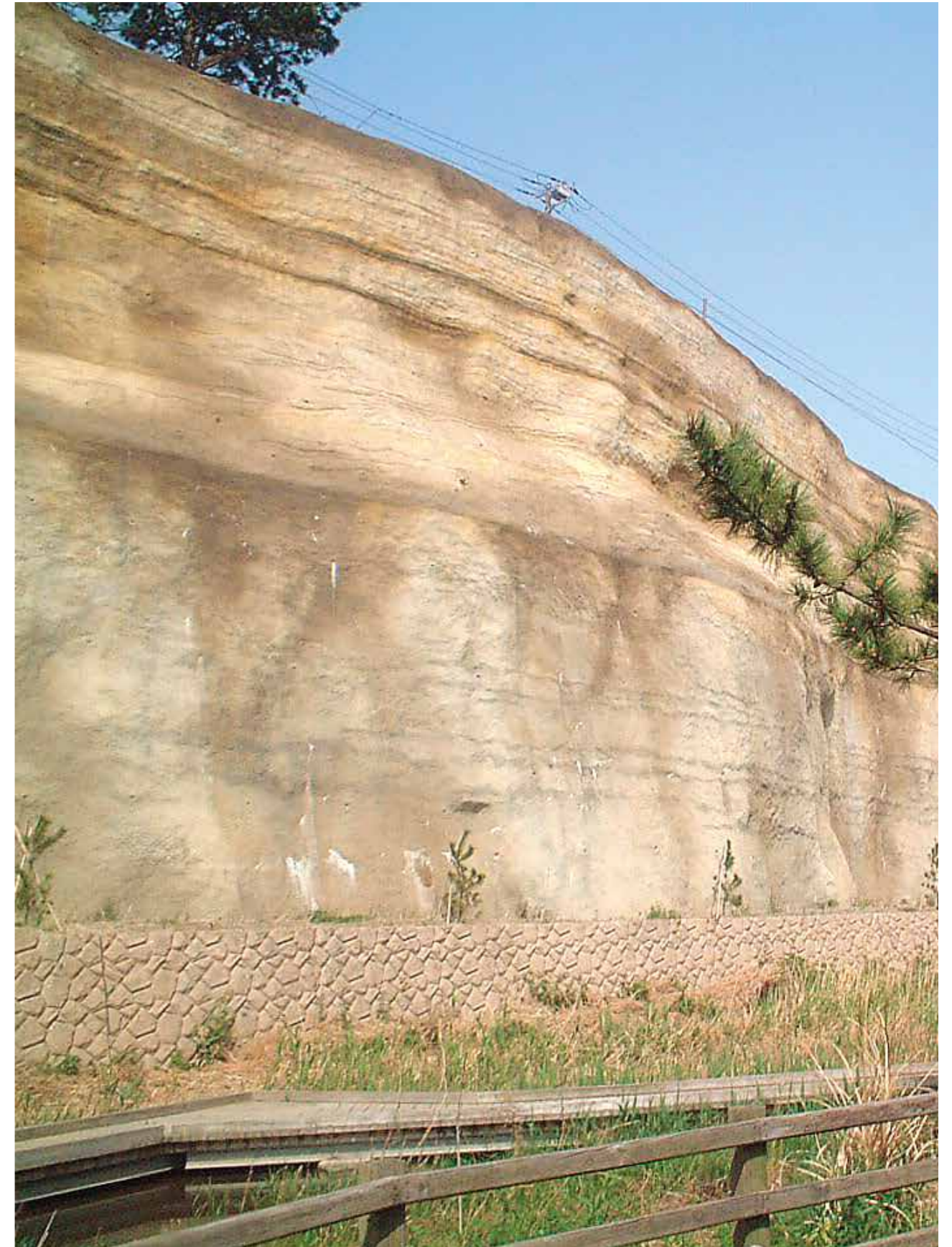


# 斜面いりどり工法<sup>PAT</sup>

景観と調和した法面保護工法

国土交通省NETIS登録番号  
NETIS KT-140026-A



防災技術部

〒102-8236 東京都千代田区九段北4-2-35

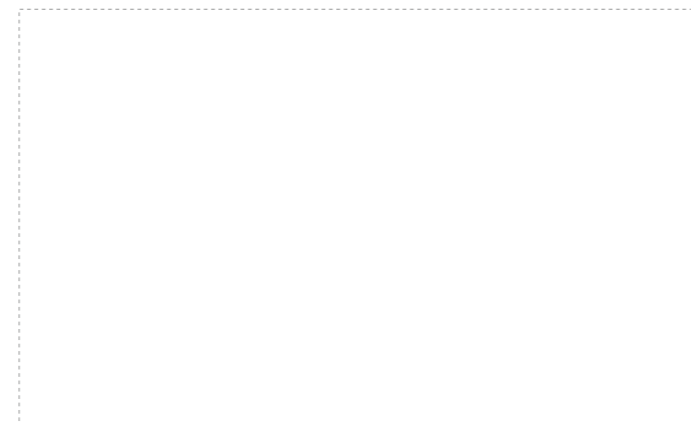
URL [www.raito.co.jp](http://www.raito.co.jp)

e-mail [gijyutsu@raito.co.jp](mailto:gijyutsu@raito.co.jp) (防災技術部)

【防災技術部】  
TEL.03-3265-2454 FAX.03-3265-3402

【設計部】  
TEL.03-3265-2845 FAX.03-3230-4156

お問い合わせ、ご用命は下記へお申し付け下さい。



発行 2016年12月  
701214\_500\_TB

# 景観・環境保全型モルタル・コンクリート吹付 斜面いりどり工法

PAT

景観と調和した彩色表現を実現。自然景観を再現する法面保護工法

これまで急勾配斜面や岩盤斜面における法面保護工としてモルタル・コンクリート吹付工が盛んに行われてきました。モルタル・コンクリート吹付工は施工が簡便であり、また、地山の密閉性が高いため風化・浸食防止効果が高いなどのメリットがある反面、施工後の周辺環境との調和は困難であり、景観性において大きな問題を残していました。その対策として、着色剤を混入してのモルタル・コンクリート吹付工も行われてきましたが、緻密な彩色表現は不可能であり、環境の調和とはほど遠いものでした。当工法は、モルタル吹付工のメリットを生かしながら、景観の調和を図ることが可能な工法です。エージング技術により人工的に現状の景観と調和した仕上がり面を表現するため、法面保護を行いつつ違和感なく周辺環境とけ込むことができます。

※エージング(aging)とは、「年」を「進める」ことであり、つまりエージング技術によって年月が経過することによる自然の変化を意図的に表現する工法です。

## 特長

1. 下地となる吹付モルタルにより基盤形状を、仕上げ塗装により地表の状態を表現することで、リアルに現状の地盤を再現することが出来ます。
2. 時間の経過と共に仕上げ塗料に退色、剥離が発生し、その間に付着する自然の汚れによって最終的には自然景観と一体化します。
3. 複雑な地層であっても細かい表現が可能です。

## 配合例

下地モルタル吹付

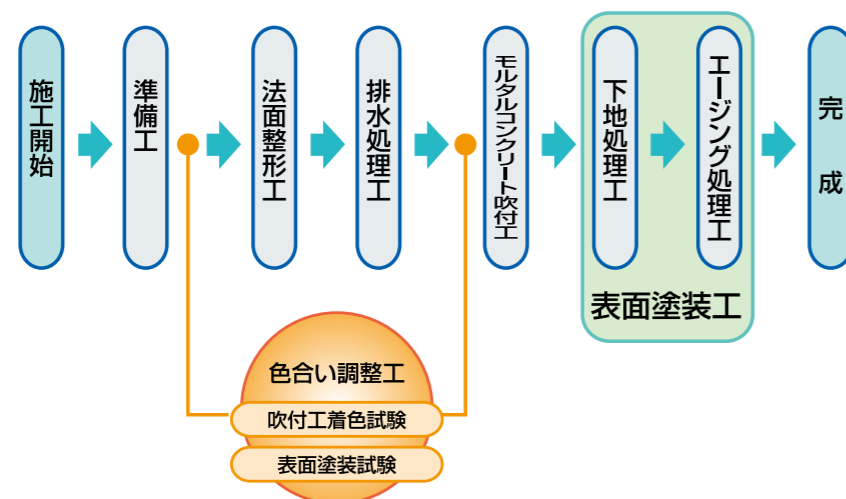
セメント	細骨材	W/C	顔料 (wt %)	繊維 (Vol%)
1	4	60%以下	CX3~5%*	0.75~1.0

※顔料は現場条件、色合い調整試験結果により決定します。

表面塗装工使用材料表

工種	名称	種類	kg/1,000m <sup>2</sup>	使用量
下地処理工	RS-1403	エージング専用特殊シーラー		325
エージング処理工	RS-1505	エージング専用特殊アクリルエマルジョン塗料		780

## 施工フロー



## 施工事例

1. 公園内の不安定化した急崖を補強土工で安定化させ、昔からの地層を再現した事例



施工前



施工後

2. 古城公園という立地条件を考慮し、斜面对策実施後現状を再現した事例



施工前



施工後

## 施工状況



準備工



法面整形工



排水処理工



色合い調整工 (吹付工着色試験)

現状の岩盤の特徴を調査し、完成時に未施工箇所とのすりつけ部の調和を図れるようイメージCG、配色図を作成します。

オーバーハング等の地山の危険箇所や、モルタルコンクリートの密着に害をなす植物、根系を除去します。

地山からの湧水が認められる場合は、地山との一体化に害をなすため適切な排水処理工を施します。

モルタルコンクリート吹付面が基岩を表現するよう、顔料の配合を決定するために吹付工着色試験を行います。



モルタルコンクリート吹付工



下地処理工



エージング処理工



完成

吹付工事着色試験結果に基づき、配合を決定し、モルタルコンクリート吹付を実施します。

下地となるモルタルコンクリート硬化後、吹付面を清掃し、下地シーラーを吹付により塗布します。

イメージCG、配色図に基づき吹付け、刷毛塗りなどにより仕上がり面を表現します。その後、汚れなどを再現します。

最終的に現状斜面を再現し、周辺景観との調和を図ります。時間経過とともに自然の汚れによって周辺景色と馴染んでいきます。